

## 根浜地区復興まちづくり協議会・地権者連絡会議事要旨

記

- 日時 12月23日(月・祝)13時30分～15時00分
- 場所 市役所第4庁舎第7会議室

### ■ 次第

#### 1. 挨拶

釜石副市長 若崎正光

#### 2. 住宅再建意向調査の結果について

- 意向調査を8～9月に実施し、現時点で回収率77.9%。
- 根浜地区は62世帯のうち公営住宅13戸、自力再建49戸を希望。
- 根浜地区内で自力再建32戸、公営住宅10戸を希望。  
他地区の公営住宅を3戸希望。他地区からの希望者があり、公営住宅は13戸を予定。

#### 3. 前回協議会のふりかえり(4月29日 開催)

- 移転元には、レクリエーション系の土地利用を計画。
- 海への見通しの確保と、海の異変にもいち早く察知することができるよう、海側全面を公園として整備。
- 日照やコミュニティ形成のため、公営住宅を中央部へ配置。
- 集会場の高台配置。
- 墓地への避難経路の設置。

#### 4. 根浜地区最新土地利用計画について

- 最新の調査結果を踏まえ、自力再建31戸、公営住宅13戸で土地利用計画を検討。
- 跡地(前回レクリエーション区域として提示)利用計画を担当する業者が決定。高台の造成地とのアクセス道も含む。
- 土地利用については、海側前面の公園など原則、前回の計画を踏襲する。
- 工事中の墓地へのアクセスに関しては、仮道路を整備予定。
- 東西の沢それぞれの沢水を分けて排水するため、西側、東側道路の脇に水路を配置予定。現在の水路の約1.8倍の大きさの水路を計画。
- 水路の上流には土砂の流出防止、流速低下のために小型の堰を計画。
- 地下水の排水については、暗渠排水を整備。

#### 【事業スケジュール】

- 土地利用の確定後、年度末にかけて測量及び用地買収を行う。

5. 市道箱崎半島線について

- ルートは、やまぎ機能訓練デイサービスホーム付近から山へ入り、根浜の高台移転エリア（前川旅館再建位置付近）に出る。終点は既存の鶴住居2号線に接続。
- 区画整理事業に伴う（仮称）新河原連絡線が接続予定。
- 現在は測量・調査・設計の平成26年3月の設計完了を目指している。
- 用地買収は、平成27年3月末を目標に進めている。用地買収、工事ともに根浜地区から進めており、順次、鶴住居側の用地買収を行っていく。
- 通常であれば、用地買収が確定してから工事発注するが、半島への早急な道路整備のため、先行発注している。工事完了は平成29年3月末を目指している。

6. 意見交換

盛土の安全性について説明して欲しい。十分な締め固めを行って工事をするので問題ないとの説明を受けたが、住宅の基礎工事に余分なお金が掛かることはないか？

→ 宅地の地盤面の基準はこれから決めていきますが、通常の戸建住宅の整備に問題のない地盤強度を設けることが団地造成の基本になります。鉄筋コンクリート造の3階建て以上などは除き、通常、2階建て程度の戸建ての場合を想定した3 t / m<sup>2</sup>などで進めていくことになると考えられます。

上流からの排水路が宅地の中に掘られるが、道路の下にあったほうが良いのではないか？

→ 排水管は国の基準に従った盛土の下を通すので、宅地の陥没などは事例からも特に心配していただくことはありません。

住民が心配している内容について、しっかりと記録しておいて欲しいです。

→ 議事録にしっかりと記録しています。

沢筋へ最大の15mの盛土造成は、地滑り地形を作る印象を持つが、地滑りの安全は保障されているのか。また、昨今、自然条件が厳しくなっており設計基準の見直しも国で議論があるなかで、排水計算上の余裕はどれくらいか？

→ 地滑りは、今の事実調査に加えボーリング調査結果を踏まえてより詳細に検討したいと考えています。排水は通常の岩手県内の河川では、時間雨量50 mm前後で整備します。安全を考え、前は1本でしたが、2本に分別してより安全に整備を行う予定であります。

排水処理の機能低下をどう考えているのか。20年先、30年先も能力を保てるのか？

→ 地下排水管は、例えば石が入っても目詰まりなどで機能しなくなることはありません。仮につぶれても、石で巻いており長期間機能が保たれるものです。

15mの盛土に関する残留沈下※はどれくらいか？

→ 現地盤については圧密層がほとんど見られないため、沈下の懸念はほとんどなく、沈下しても即時沈下で収まります。盛土については、搬入する材量次第ではありますが、十分な締め固めを行いながら施工するため、こちらも即時沈下すると考えています。

箱崎線は二線堤的な位置づけをイメージするが、堤防機能を少しは持たせているのか？

→ 道路の設計でそれを見込んでいませんが事例などから、道路としての普通の設計をしていれば一定の効果はあると考えられます。

いつから自力再建の住宅を建設会社に発注できるのか？沿岸で一斉に工事が始まることから、住宅の建設業者が見つかるか不安であり、今日時点で分かる範囲で良いので教えて欲しい。

→ 造成工事を平成26年12月までとしています。どこにどれくらいの期間がかかるか詳細設計が進み工程が明らかになり次第、情報提供していきたいと思います。現時点での工程では、造成工事が終了した平成27年1月から住宅整備を行える予定です。

日照について後から問題が生じて、私の土地にある木を切ったり、山を切ったりできないです。

→ かさ上げた宅地を整備するため、日照の問題はある程度解消できた宅地になることを確認しています。

※即時沈下+圧密沈下量の合計したもののことを表す。  
即時沈下：地盤が荷重を受けたとき、載荷とほぼ同時に生ずる沈下現象。  
圧密沈下：締め固めによる地盤沈下現象。荷重作用後、長時間にわたって沈下が継続する。